

藤並の森



▲東京駅13番線ホームに立つ松本清張 / 北九州市立松本清張記念館 提供

リレー随筆

「清張文学との新たな邂逅」

藤井 康榮

高知県を舞台にした小説に「落差」があります。昭和三十年代初めに教科書検定制度の改変があり、教科書販売合戦が熾烈を極めました。そうした社会的事件を背景に、監修の歴史学者の虚ろな名声と現実の落差を鋭く暴き出しています。松本清張らしい社会批判に満ちた力作です。昭和三六年から一年間新聞に連載された長編ですが、作中、ダム工事の計画が進む《馬背川》上流の《田積》村《志波屋部落》や、教科書会社の社員が営業に廻る高知県内の町々が仮名で登場します。高知の方々にはモデルが類推できて、作品が身近に感じられることでしょう。『全集』に収録がありますので、ぜひ一読をおすすめします。

本年は、松本清張生誕百年です。「落差」など清張作品と縁のある高知県立文学館で、百歳の誕生日十二月二二日を含む期間に、記念の全国巡回展『松本清張展——清張文学との新たな邂逅』が開催されることは、意義あることと思います。松本清張の記念館を故郷・小倉の地にとり計画が持ちあがり、協力を依頼されたとき、なぜ仕事場の東京ではなく北九州市なのかという思いは確かにありました。しかし、その準備の過程で何度も小倉を訪れるうち、作家・松本清張の基層はその四三年の半生を過ごした小倉で蓄積され、培われ

たのだと判ってきたのでした。小倉こそ松本清張という巨人を研究する地としてふさわしいと確信しました。そして、その基層を掘りおこし、知られざる一面を発掘して、清張の実像に少しでも近づくことが、記念館の研究の大きな柱になりました。

今回の『松本清張展』の展示は、私たちが開館以来十一年の間に研究した成果、調査・発掘した新事実を中心に構成しました。松本清張は常に向上心を失わず、独学独習を続けました。尋常高等小学校卒業後の給仕時代から積みかさねた膨大な濫読体験。仕事の版下を書くため練習した書道。俳句とカメラ。イラスト・デザインの腕はプロ級でした。興味をもった民俗学と関心を持ちつづけた考古学。そして、私が驚きをもって発見したのは、へ英会話への学習でした。朝日新聞社時代、清張は社内講習会に出たり、社の通訳の通勤に付いて英会話の個人教授を受け、社を訪れる外人相手に何とか対応できるまでに上達したのでした。こうした清張の知られざる一面をたっぷりと紹介しています。

生誕百年の年に、松本清張とその文学世界との新たな邂逅をお届けし、今後百年へと繋がる展示に努めました。記念館オリジナル映像での代表作の紹介など工夫をこらし、既存のファンのみならず若い方々にも十分満足いただける内容になったと自負しております。一人でも多くの方にご覧いただけると幸いです。

(北九州市立松本清張記念館 館長)

展覧会
紹介
EXHIBITION

松本清張展

—清張文学との新たな邂逅



平成21年
12月1日(火)
▽
平成22年
1月17日(日)
企画展示室
観覧料500円

今年、昭和という時代を駆け抜けた国民的作家・松本清張の生誕百年にあたります。これを記念して四月十一日から全国を巡回してきた展覧会を、高知県立文学館にて開催いたします。

偉大な作家を培った前半生と、膨大な作品を生み出した後半生を軸に、代表作の発想・創作の過程でのノート・メモや初公開の直筆原稿など北九州市立松本清張記念館が所蔵する資料を中心に展示し、松本清張の全貌とその魅力に迫ります。

▲大正十四年(十六歳)川北電気企業社小倉出張所の給仕をしていた頃/北九州市立松本清張記念館提供



●小倉時代の松本清張

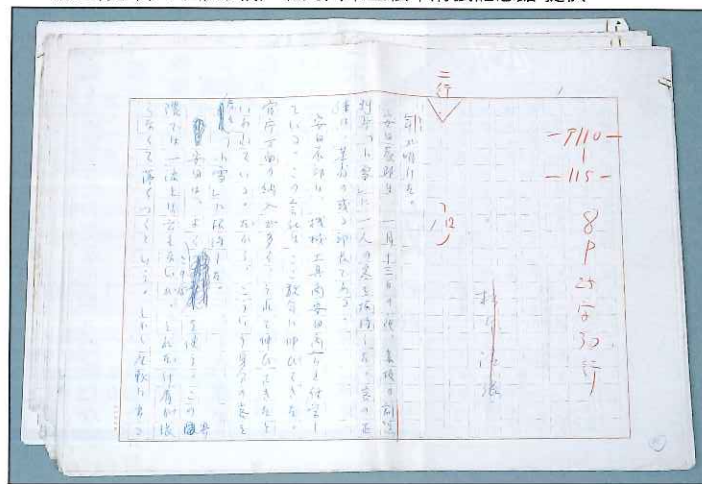
松本清張は明治四二(一九〇九)年十二月二日、現在の北九州市小倉北区で生まれました。尋常高等小学校高等科を卒業後、会社の給仕、印刷所の版下画工をへて朝日新聞九州支社へ入社。経済的な貧しさや学歴による差別のなか、家族の生活をささえながら閉塞感にあえぐ日々を送っていました。その中でも清張は旺盛な好奇心と探究心を持ち続け、多くの文芸書を読み、知識を得ていきました。作家・松本清張を支える膨大なエネルギーは、前半生の小倉時代に蓄積されたと言えます。「板櫃尋常高等小学校・集合写真などをはじめとする資料で幼い頃を紹介し、文芸書に親しむ青年期、一家の生活を支え続けた家長としての姿などを、松本清張記念館開館以来十年間の調査で発掘・収集した新資料・

●清張文学の世界

新証言を中心に多角的に展示し、作家・松本清張の前半生をたどることで、その人間像に迫ります。

昭和二五(一九五〇)年、懸賞小説に応募した「西郷札」が入選したことをきっかけに、清張は作家としての道を歩みはじめます。それは、八二年の生涯のほぼ中間点にあたる四一歳のことでした。昭和二八(一九五三)年に「或る『小倉日記』伝」で芥川賞を受賞し、その後は東京で過ごすこととなります。芥川賞受賞後、清張は作家として、それまでの時間で培ったものを一気に開花させるように膨大な量の作品を執筆します。松本清張の代表作には、推理小説という手法の中で人間を深く見つめ

▼「点と線」(第1回)原稿/北九州市立松本清張記念館提供



その内面性に迫った『点と線』『ゼロの焦点』『砂の器』や、膨大な資料に基づく綿密な調査により歴史の暗部を紐解いた『日本の黒い霧』『昭和史発掘』などがあります。経済成長を迎える日本で、変わりゆく時代を見つめた松本清張の作品は、同時代を共に生きる国民から強く支持され、清張ブームを巻き起こすこととなりました。ベストセラーとして支持された作品群の魅力や、代表作の発想・取材・思索・創作の過程を示す資料や初公開となる多数の直筆原稿を通して紹介します。

展覧会
紹介
Exhibition

松本清張展

—清張文学との新たな邂逅



平成21年
12月1日(火)
▽
平成22年
1月17日(日)
企画展示室
観覧料500円

●世代を超える魅力

近年でも多くの作品が映画化、テレビドラマ化されるなど、世代を超えて人々を引きつける魅力があることも清張作品の特徴です。松本清張の活躍を同時代で体験した世代の方には清張作品と共に昭和という時代を振り返っていただき、また、映像で親しんだ若い世代の方にも清張作品が生まれた背景を知ることにより深く作品の世界を楽しんでいただければ幸いです。

●松本清張と高知との意外な関係もご紹介

松本清張は、若い頃、雑誌「新青年」を愛読し、江戸川乱歩のデビュー作である「二銭銅貨」もこの誌上でいち早く読んでいました。その「新青年」初代編集長で

江戸川乱歩や横溝正史を発掘し探偵小説の生みの親といわれたのが高知県出身の作家・森下雨村であり、清張は森下雨村の『猿猴川に死す』に序文を寄せています。

そのなかで「私は、「新青年」の愛読者だったから、森下雨村氏の名前は十分に知っていた。雑誌の奥付にある氏の名は、「新青年」の誌名と同義語をもっていた。」と述べ、雨村の訳文について「バタ臭くなく、じかに心に入ってきた」と評しています。

また、高知県出身の装丁家・倉橋三郎さんは姉である作家・倉橋由美子さん(故人)をはじめ、宮尾登美子さん、森村誠一さんなどの多くの装丁を手がけ、松本清張作品の文庫本装丁も担当しています。

このような松本清張と高知のつながりもお楽しみください。(学芸課/間城彩佳)



▲森下雨村著
『猿猴川に死す』
(関西のつり社刊)

◆関連企画のご案内◆

清張の誕生日12月21日(月)は文学館へ! この日にご観覧いただくと、希望者の中から抽選で、TOHOシネマズ高知で公開の映画「ゼロの焦点」ご鑑賞券を10名様にプレゼント!

■記念講演会「作家・松本清張の誕生」

朝日新聞社時代を中心に作家・松本清張が誕生するまでの軌跡をたどります。

日時：平成21年12月20日(日)午後2時～

場所：高知県立文学館1Fホール

講師：中川里志氏(松本清張記念館学芸員)

参加料：要当日観覧券

定員：100名(要電話申込)

■清張を観る! 松本清張原作映画ビデオ上映会

◆「天城越え」…平成21年12月23日(水) ※各日とも

時間：午後2時～

◆「鬼畜」…平成22年1月3日(日)

定員：80名(要電話申込)

◆「わるいやつら」…平成22年1月11日(月・祝)

場所：高知県立文学館1Fホール

参加料：要当日観覧券

☆展示解説

毎週土曜日と12月1日(火)・21日(月)、1月17日(日)に、展示担当者による展示解説を行います。各日とも午後1時半～(約30分)

参加料：要当日観覧券

その他、清張クイズや、朗読の会を催します。詳細は文学館までお問い合わせください。(TEL: 088-822-0231)

～その他の催し～ ※お問い合わせは主催者へお願いします。

○平成21年12月5日(土) 駅からウオーク「松本清張高知展記念ウオーク」

主催：高知県ウオーキング協会(高知県観光コンベンション協会内) (TEL088-823-1434)



「一枚絵」に描かれた物語の世界展 11月22日(日)まで開催中



子どものための教養にいたるまで、広くテーマを取り上げてきました。なかには、生き物や植物を描いた博物学の一枚絵もあります。これらは細部にまで描写がなされていて、現在の図鑑にも劣らないほどです。また、江戸時代の日本の風景や服装を取り上げている一枚絵もあり、描写の正確さやユーモラスな動きは現代の私たちの目をひきつけます。

高知県立文学館では、現在「一枚絵」に描かれた物語の世界」展を高知こどもの図書館との共催で開催しています。

最初にご覧いただけるのは、北ドイツのノイルピンで一八一五年から出され始めた「ノイルピン一枚絵」です。この一枚絵は値段が安く、広く庶民に読まれていました。発行当初からの、いわゆる「絵入り新聞」の形態を崩すことなく百年以上続きました。後には、ペーパークラフトや童話などが紙面に登場し、大人も子どもも楽しんでいたようです。そして、今回のメインである「ミュンヘン一枚絵」は、緻密な木版画で、芸術性が高いものでした。また、これまでのものとは内容が異なり、昔話や伝説、古代の七不思議などの面白い話題から、歴史や外国の様子といっ

今回は、グリム童話を中心とした「物語を描いた一枚絵」を数多く展示しています。絵だけや文字の少ない一枚絵は、子供たちにも受け入れられ、グリム童話を広めるのに重要な役割を果たしました。また、ブッシュとメッゲンドルファーの一枚絵は、現代漫画と同じようにコマ割り

◀ ウィーン一枚絵「白雪姫」



▶ ミュンヘン一枚絵「蝶」



がされ、おもしろいストーリーが展開していきます。これらの形態は現在の漫画の源流となったとも言われています。

一枚絵で人気を博したブッシュは、後に「マックスとモーリッツ」などを世に出し、独自の漫画的な世界を確立します。また、同じく人気があったメッゲンドルファーは、後に仕掛け本の作成にも力を入れ、「仕掛け絵本の父」と称せられています。今回はその仕掛け絵本も展示しています。この二人の原点が、ミュンヘン一枚絵にあったことはあまり知られていません。古いものは一六〇年前のものもあり、当時の人々が手にしていた一枚絵をご覧いただけます。会期は十一月二二日までとなっておりますので、ぜひお見逃しなく。

(学芸課/野々村昭美)

関連企画

■ ギャラリートーク ■

安田幸子氏による展示解説

日時 11月7日(土)、22日(日)
各日 14:00～(1時間程度)

場所 文学館 2階企画展示室

参加料 要当日観覧券



「寺田寅彦— 手のぬくもり展」

「寺田寅彦—手のぬくもり展」(会期…九月六日～十月四日)は、好評のうちを終りました。「手のぬくもり」の感じられる自筆資料を中心に約三百点を紹介。初公開の資料もあり、注目を集めました。

◆新資料「みそさざい」他を公開

今年八月、寅彦の孫にあたる関直彦さんから「みそさざい」(三号・九号)と、子どもたちが旅先や避暑地から寅彦に宛てた葉書七点が寄贈されました。

一九二〇(大正九)年、寅彦の提案で作られた「みそさざい」は、子ども五人が銘々に描いた花や野菜、景色や自画像などを綴じた小さな絵の雑誌。寅彦の父親像や、家庭内の温かさが伝わります。寅彦の次男・正二さん(故人)の追想



◀新資料「みそさざい」と葉書七点

文によると、後の「文章号」を含め全十数冊発行されたようですが、「絵の方が二冊ばかり残っているだけ」で、その他は「一つもない」とあり、その存在自体が貴重だといえます。また、今年七月に寄贈された石原純宛書簡・葉書や、寅彦の義理の甥・濱口喬夫さん(故人)の絵画など、新しい発見や発表が詰まった展覧会でした。

関連企画では愛蔵の蓄音機を聴く会や文学散歩、朗読の会やオリジナル万華鏡を作るイベントなどを開催。「寺田寅彦と漱石・家族」と題した関直彦さんの記念講演会では、ご遺族しか語れないエピソードに会場から笑いもこぼれました。最後になりましたが、展覧会に関わってくださったすべての方々に、心より御礼申し上げます。

(学芸課/森 香奈子)



「みそさざい」展示風景



団体観覧の様子



寅彦愛蔵の蓄音機を聴くイベント



万華鏡を作るイベント

館長室から

「『秋思』の季節に想う」 元吉 喜志男

「朝目覚める。するとあなたの財布にはまっさらな二四時間がぎゅっしりと詰まっている。…時間をあなたより多く与えられている者も少なく与えられている者もない。」作家A・ベネット(英)が『自分の時間』の中で述べている言葉です。

人生という旅の中で、人はこの時間を使って、様々な経験や挑戦をしていく訳ですが、盧生のみた「邯鄲の夢」の例を引くまでもなく、悠久の歴史の大河の一滴のように、ひとりの人が一生の中で使える時間には限りがあります。

そこで、幾千年幾百年を通じて先人がしたためてきた「文学」と仲良く付き合ってみると、そこには時間や空間を越えて、一般人の日常生活では体感することが難しい光景や自分の能力では考えが及ばない心の深淵など、興味深い様々な世界との邂逅があります。作家A・フランス(仏)も「私が人生を知ったのは、人と接触した結果ではなく、本と接触した結果である。」という言葉を残しています。

季節は秋。「…我言秋日勝春朝、晴空一鶴排雲上、便引诗情到碧霄」(自分は秋の日のなかの方が春の朝にも勝つと言いたい。晴れ渡った秋空高く一羽の鶴が雲を押し分けるようにして舞い上がって行く。それは人のうた心を誘うように、大空の上まで昇りつめるようである。)(『秋思』劉禹錫)の一節が重なります。

「盛年重ねて来たら、一日再び晨なりがたし、…」です。我が文学館も、本に親しむことにより、それぞれの人生の旅をより心豊かなものにしていただく、ささやかなお手伝いが出る場となればと願っています。さて、こんなことを思うのも「…階前の梧葉すでに秋声」を感じ始めている自分自身への反省からなのかもしれません。

浦戸湾の巡航船 — 「港の漁民」 佐野順一郎 — 猪野 睦

いまでは幻の光景となったが、戦後十年あたりまで、浦戸湾を小型巡航船が走っていた。緑色透明の湾内へ高知市農人町の船付場をでて、棧橋、三疊瀬、浦戸、種崎とめぐって往來した。

高知市内への通学生などの定期便にもなっていた。そして観光客を桂浜へ運ぶ航路でもあり人気があった。長浜、種崎地区民にとっては、大切な交通機関であり、浦戸湾両岸に沿う砂利道のバスより、はるかに便利だった時代である。

吃水線すれすれの航側が波をおしわけ、なめらかな湾内を機関音をたてて走った。船から眺める湾の島影や沿岸の緑は、澄んだ海面とともに絶景に近いものだった。秋には二ロギ釣りの小舟がゆれ、光景に味わいをそえた。

風光明媚という言葉があるが、巡航船からの眺めはそれにふさわしかった。だがそれも巡航



▲ 浦戸湾遠景

船の消える頃から、高知市内から流れこむ汚水や沿岸の埋立開発で失われていった。業をにやした市民による汚染源工場排水口に生コンを流しこむ生コン事件が起って、浦戸湾を守る会なども作られた。

この浦戸湾の巡航船を小説にとりこんだ作家に佐野順一郎がいた。いまの香南市出身であるが、一九三二年に上京して作家の道を歩み始める。三五年、貴司山治が発行する「文学案内」十月・十一月号につづけて、「港の漁民」をかいた。誌上には新鋭作家の作品として徳永直や島木健作らと肩を並べた。舞台は浦戸湾内三疊瀬中心だった。昭和戦前、湾内零細漁民は大型機船底曳きの登場で、漁場を荒され、暮しも追いこまれていく。ごつり底を曳かれると魚はいなくなる。三疊瀬の漁民の妻たちは夫のとつた魚をザルに入れ、巡航船のつて高知市内へ行商にでかける。

「ペンキの剥げて木肌の凸凹のむき出しになっている古い小型の巡航船は激して目釘をきまして動き出した。」「船足があがるにつれて硝子窓の隙間から冷たい水上の空気が針のように鋭くすいすいと刺しこんで来る冬の船だった。妻たちは市内で一日行商をし、種崎町の魚の棚の横丁で露店市を張って値切られ売りつくして帰ってくる。

魚の棚といえは、今も昔のたたずまいの横丁として残っているが、かつてのにぎわいはない。佐野順一郎の作品では、当時の魚の棚の姿が三疊瀬、湾をよぎる巡航船とともに浮かび上ってくる。忘れられた時代の歌といつていい。 (詩人)

資料受贈報告

— 最近の寄贈資料から —

「寺田寅彦関係資料

濱口喬夫 繪画

『伊吹山への路』他



受贈報告(平成二二年八月〜十月) 敬称略

- ▼藤本綾子：土佐文雄関連資料(図書三二五点、原稿類七点、書簡二四点他) ▼嶋岡 晨：嶋岡晨作品掲載資料他 六二点 ▼猪野 睦：島崎曙海原稿他 九六二点 ▼森 美沢：横山青娥資料(書簡二七点、図書三六二点) ▼山本富子：山本家蔵書 一七〇点 ▼関 直彦：寺田寅彦資料(みそさざい)(二九号・九号) 一点、書簡七点他) ▼森 裕美子：石原純宛 寺田寅彦書簡二点 ▼辻 正子：濱口喬夫繪画(伊吹山への路 他) ▼小松弘愛：高知詩集 二〇〇八年 小松弘愛選 ふたば工房 他 ▼西岡寿美子：菜園だより 西岡寿美子 二人発行所 ▼坂本 安：「あざみのうた 坂本安著刊」 ▼高知県立美術館：「キティ・エックス パーフェクトガイド 大山ゆかり編：他 美術出版社」他 ▼高知県立牧野植物園：「年報 第八号(二〇〇八) 高知県牧野財団編刊」 ▼土佐山内家宝物資料館：「年報 第七号 平成二〇年度 土佐山内家宝物資料館」

濱口喬夫(一九〇八〜一九九五) 洋画家・

教育者。高知市に生まれ、大正十五(一九二〇)年高知県立中学海南学校を経て東京美術学校油画科に入学。藤島武二に師事、小磯良平らの指導を受けました。昭和七(一九三二)年高知市高等小学校に奉職。日中戦争勃発の際応召し、いったん帰国しますが戦争激化に伴い再度仏印、ビルマに転戦。昭和二二(一九四七)年に帰国後は美術教育に携わり、高知県内高校で美術教師として教壇に立ちます。その後六〇歳ごろから盛んに制作を始め、個展を重ねながら活動していきます。今回ご遺族のご好意により寄贈いただいた資料は、自然を愛しモチーフとした「椿」「利尻」、ヨーロッパの風景を描いた「プラハの橋」、

戦死した戦友の鎮魂の思いを込めて、バゴダ(仏塔)の光景を描いた「道畔のバゴダ」「シユエダゴンバゴダ」や高知を描いた「雪やなぎ筆山」など計十五点。また昨年高知県立美術館にて開催の「市民とつくる展覧会 大リクエスト展」郷土部門で一位となった「老樹の春Ⅱ」の連作「伊吹山への路」も含まれます。濱口喬夫さんは寺田寅彦の義理の甥にあたる関係で、東京美術学校に通っていた頃は寺田家によく出入りし、寅彦と楽器の合奏や絵画論を交わし大きな感化を受けたそうであり、寺田寅彦関係資料として、また郷土の文化人の作品としても貴重な資料です。 (学芸課/宮崎圭子)

このほか、全国の個人・関係機関の方々から数多くの資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。

文学館トピックス!

がんばる高知県立文学館! 今後もご期待ください!

◆事業評価委員会より「ランクA」の評価をいただきました。

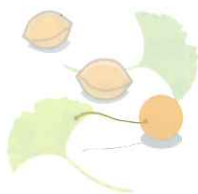
高知県立文学館など指定管理者が運営を行う高知県内の県立文化施設に対して、「県立文化施設事業評価委員会」が事業の実施状況などを評価した結果が9月下旬に公表されました。これは、事業の質の向上、改善につながるため毎年A〜Dの4段階で評価されるのですが、文学館は平成二十年度の事業で「計画や目標を上回る成果があり、優れた管理運営、事業の遂行がされた」とするA評価を受けました。

当館では、高知県ゆかりの作家の顕彰のみでなく、人気の高い作家や話題性のあるテーマでの展覧会を企画し、より多くの皆様に文学に親しんでいただくことを目標に創意工夫をこらしています。その努力が観覧者数の増加や教育普及事業の拡大など目に見える形での着実な成果に結びつきました。今後も、スタッフ一同、皆様により一層親しんでいただける文学館を目指して努力してまいります。

◆上半期の観覧者数は「約50%増加」しています!

平成二十年度は話題性のある展覧会を開催し、開館以来最高となる多くの方にご観覧いただきました。今年は、それを上回る多くのお客様にお越しただいており、本年四月から九月までの観覧者数はすでに一万四千人を超え、前年同期と比べて約二・五倍となる伸び率を記録しています。五〜六月に開催した展覧会「瀬戸内寂聴の世界」では瀬戸内寂聴先生による講演会を開催し、会場を埋め尽くす多くのお客様にお越しただきました。また、夏休み期間を中心に開催した「リサとガスパール&ベネロベ展」ではご家族で楽しんでいただき、小中学生以下の観覧者数が大幅に増加しました。その他の展覧会も多彩な関連企画を行うなど健闘し、すべての月で実質対前年を上回っています。

十二月からは国民的作家・松本清張の巡回展、二月からは大河ドラマ「龍馬伝」と絡めた展覧会も開催しますので、さらにも多くのお客様にお越しただけるよう取り組んでまいります。(学芸課/間城彩佳)



朗読審査 & 記念講演会

高知県立文学館 第12回児童生徒文学作品朗読コンクール

入場無料 一般公開

会場：文学館ホール

日時：平成21年 11月22日(日) 13時～

- ・審査(公開)：13時～14時10分
- ・記念講演会：14時20分～15時20分

※演題：「絵本と児童文学」講師：池田 あきこ 先生

- ・表彰式および講評：15時30分～16時

おめでとう!
今年がダヤン誕生25周年!

高知県立文学館にて
ダヤングッズ 好評販売中!
(販売期間:11月30日まで)



池田先生から
メッセージが
届いています!

『雨の木曜パーティ』朗読と、『絵本ができるまで』について、お話をしようと思っています。
会場に上手に雨を降らせることができるかどうか、とても楽しみにしています。
参加者の協力がかなめなんですよ!

今年も八月下旬に県内三会場（小中学生を対象とした朗読コンクール地区審査を行いました）とした朗読コンクール地区審査を行いました。
参加校・小学校二十校、中学校十一校、参加者六六名の中から、県審査への出場者十九名を決定しました。県審査は十一月二日(日)十三時から開催し、朗読審査と〈架空の世界わちいーるどくと猫のダヤンの物語でおなじみの池田あきこ先生による記念講演会を行います。審査と講演会は公開ですので、秋の一日、心をこめて朗読する子どもたちの応援のため、ぜひお越しください。 (学芸課/間城彩佳)

イ
ベ
ン
ト
紹
介



サイン会開催!!

(サイン会は16時00分～16時30分を予定しております。)

コンクール終了後、会場にて池田先生の本を購入された方を対象にサイン会を行います。(先着100名様まで) 本をお持ちになって会場コーナーまでお越し下さい。



※年末年始のため、12月27日(日)～1月1日(金)は休館いたします。
 新年は**1月2日(土)**より開館いたします。
 ※また、常設展示室の改装入替のため、1月20日(水)～1月31日(日)は**臨時休館**とさせていただきます。

企画展
案内

「一枚絵」に描かれた物語の世界展

開催中～11月22日(日) (※会期中 休館日なし)
 会場：高知県立文学館 2F 企画展示室
 観覧料：350円 (常設展含) 午前9時～午後5時 (入館は午後4時半まで)



松本清張 写真提供 文藝春秋

松本清張生誕100年記念巡回展

松本清張展1

清張文学との新たな邂逅

12月1日(火)～平成22年1月17日(日)
 (休館日：12月27日(日)～1月1日(金) ※年末年始のため休館いたします)

会場：高知県立文学館2F企画展示室

観覧料：500円 (常設展含)

開館時間：午前9時～午後5時 (入館は午後4時半まで)

国民的作家・松本清張の生誕100年を記念した巡回展。作家としての基層を形作った前半生の小倉時代と、旺盛な探求心をもってためめめ挑戦を続けた後半生の作家活動に焦点をあて、代表作の発想・創作の過程でのノート・メモや初公開の直筆原稿を中心に、松本清張の全貌を紹介します。

松本清張展の紹介をしています！詳細は表紙・2・3ページをご覧ください。

土佐井かるた大会

有限会社生活創造工房さんと文学館が新春に贈るイベント！巷で大人気の「土佐井かるた」(生活創造工房)でかるた大会を開催いたします！どなたさまもお気軽にご参加くださいませ！

日時 平成22年1/10(日) 午後2時～

高知県立文学館 1F
 こどものぶんがく室
 にて開催！

(参加無料・申し込み不要)



西澤保彦

作家デビュー15周年
 及び50冊刊行
 記念講演会
 開催！

日時 平成21年11/23(月)
 午後2時～午後3時30分

講演後、サイン会あり
 演題：「地元で書く」
 講師：作家 西澤保彦氏
 場所：高知県立文学館 1Fホール

入場無料
 要申し込み

朗読フェスティバル

出演者募集中！

高知県立文学館では、朗読を通して文学に親しんでいたごとうと、平成22年2月20日(土)に「朗読フェスティバル2010」を開催いたします。「朗読フェスティバル2010」に朗読者として出演してみませんか？

●申し込みめきり●
 11月30日(月)

募集要項に必要事項をご記入の上、文学館まで応募してください。

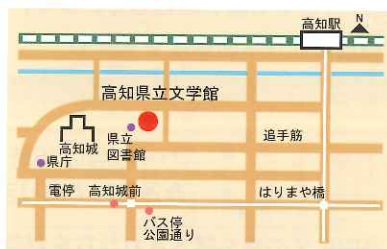
朗読者として
 それ以外の目録、目で、声で
 文学を楽しんでください。



利用案内

開館時間 午前9時～午後5時 (入館は、午後4時半まで)
 休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。
 観覧料 一般350円
 特別企画展のあるときは、料金が変わります。20人以上の団体は2割引。高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者及び身障者手帳、療育手帳、障害者手帳、戦傷病者手帳及び被爆者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。なし。ただし近辺に有料駐車場があります。
 駐車場 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、茶室「慶雲庵」
 貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港バスではりまや橋下車徒歩20分
- JR高知駅下車徒歩20分
- 土佐電鉄電停高知城前下車北へ徒歩5分
- バス停公園通り下車北へ徒歩5分



高知県立
 文学館

〒780-0850
 高知市丸の内1丁目1-20
 電話 088-822-0231
 FAX 088-871-7857

E-mail: bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp
 http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku/